

2020年 大学・短大への 現役進学率55%超！

卒業者は1.3万人減少も、大学進学者が5.7千人増。
専門学校への進学者も2.8千人増

旺文社 教育情報センター 2021年3月1日

昨春2020年に卒業した高校生(全日制・定時制、中等教育学校後期課程)のうち55.4%が、現役で大学・短大に進学したことが、文部科学省『学校基本調査』によりわかった。2019年に比べて、現役進学率は大学が1.1%アップ、短大が0.1%ダウン。大学は、7年連続の上昇だった。専門学校への進学率も、2年連続上昇した。本稿では『学校基本調査』など文科省資料と、一部弊社調査のデータを基に、主に現役生の進学状況の概要をまとめた。

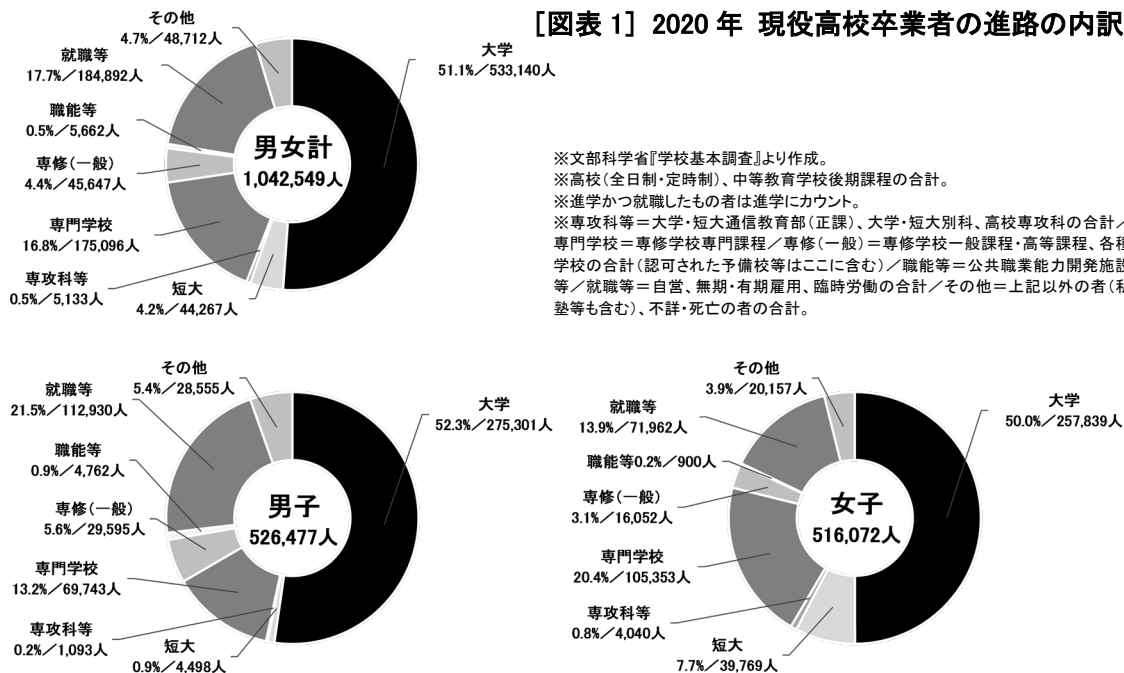
※本稿での高校＝高校(全日制・定時制)と中等教育学校後期課程の合計。

※本稿中、四捨五入の関係で%の合計が100%にならない場合、小数第1位が本文の記述と合わない場合がある。

■現役での大学・短大進学率は55.4%に。卒業生数は減少も、大学入学者が増

2020年高校卒業生は前年より▲13,258人の1,042,549人。大学進学者の割合は男子が女子より高い一方、女子は短大・専攻科等・専門学校も含めると78.9%に達し、男子66.6%よりも高くなる。男女計の大学・短大への現役進学率は前年54.3%から55.4%にアップした。

【図表1】2020年 現役高校卒業者の進路の内訳



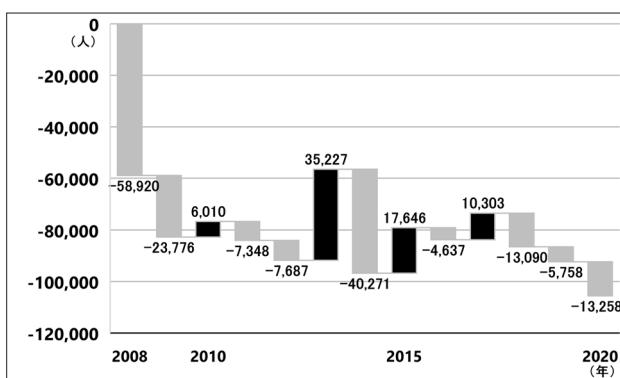
※文部科学省『学校基本調査』より作成。

※高校(全日制・定時制)、中等教育学校後期課程の合計。

※進学かつ就職したものは進学にカウント。

※専攻科等＝大学・短大通信教育部(正課)、大学・短大別科、高校専攻科の合計／専門学校＝専修学校専門課程／専修(一般)＝専修学校一般課程・高等課程、各種学校の合計(認可された予備校等はここに含む)／職能等＝公共職業能力開発施設等／就職等＝自営、無期・有期雇用、臨時労働の合計／その他＝上記以外の者(私塾等も含む)、不詳・死亡の者の合計。

[図表 2]
高校卒業者の対前年の増減人数
[男女計] (2008年からの累積も表示)



※文部科学省『学校基本調査』より作成。
 ※高校(全日制・定時制)、中等教育学校後期課程の合計。

図表2は、高校卒業者を前年と比較して「増えた人数」「減った人数」と、その累積を2008年から示したものだ。たとえば、2008年は2007年より▲58,920人、2009年は2008年より▲23,776人のため、2009年の棒グラフは左目盛りを見ると「-82,696人」を示している。

高校卒業者数は、1992年の180.7万人を直近のピークとして以降減少を続け、2010年から2017年は増減を繰り返した。2018年からは減少局面に入っている。高校卒業者数は、2008年から2020年までの累計では、▲105,559人となっている。

図表3では同様に、2008年以降の現役での大学入学者、短大入学者の増減を示した。

2008年から2020年までの累計で、現役での大学・短大入学者は▲5,765人(大学+27,189人、短大▲32,954人)。短大は、高校卒業者が前年より3万5千人増えた2013年に977人増加した以外は、減少。一方、大学は高校卒業者が減少した2009・2016・2020年にも増加している。

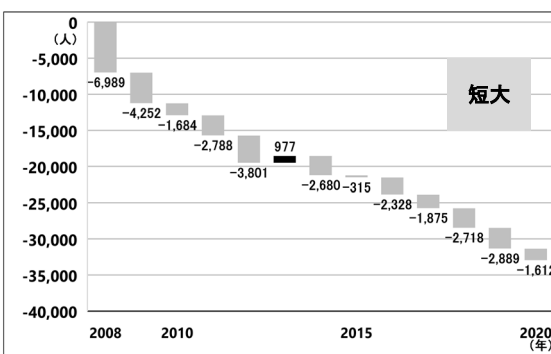
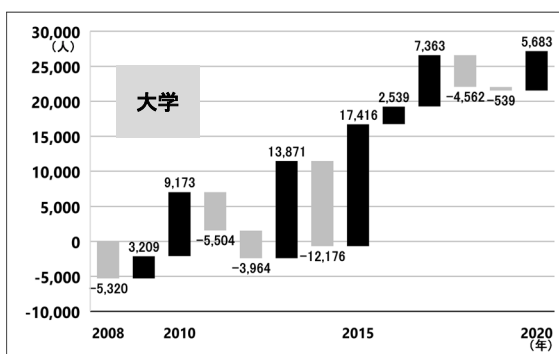
高校生の進学状況には、その時々々の社会情勢、経済状況、大学入試に関する国の施策など、さまざまな要因が影響を与える。近年ではリーマン・ショックや東日本大震災による景気の悪化、その後の景気好転、私立大の定員超過率の厳格化などだ。

2020年に関しては、翌年に入試改革が控えていたことで、現役生の現役志向が最大化されたと考えられる。1万3千人強も高校卒業者が減少するも、現役での大学入学者は5,683人増。現役入学者が減少した短大を合わせても4,071人増えた。

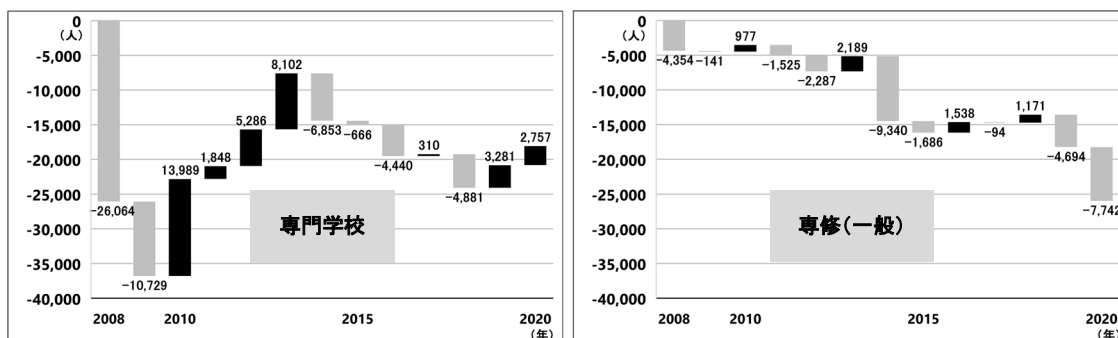
専門学校への進学状況はどうなっているのか。次ページで見ていく。

[図表 3] 現役生の大学入学者、短大入学者の対前年の増減人数[男女計] (2008年からの累積も表示)

※文部科学省『学校基本調査』より作成。
 ※高校(全日制・定時制)、中等教育学校後期課程の合計。



[図表 4] 現役で専門学校、専修学校(一般課程)等へ進んだ者の対前年の増減人数
[男女計] (2008年からの累積も表示)



※文部科学省『学校基本調査』より作成。
 ※高校(全日制・定時制)、中等教育学校後期課程の合計。
 ※専門学校=専修学校専門課程。 ※専修(一般)=専修学校一般課程・高等課程、各種学校の合計(認可された予備校等はここに含む)。

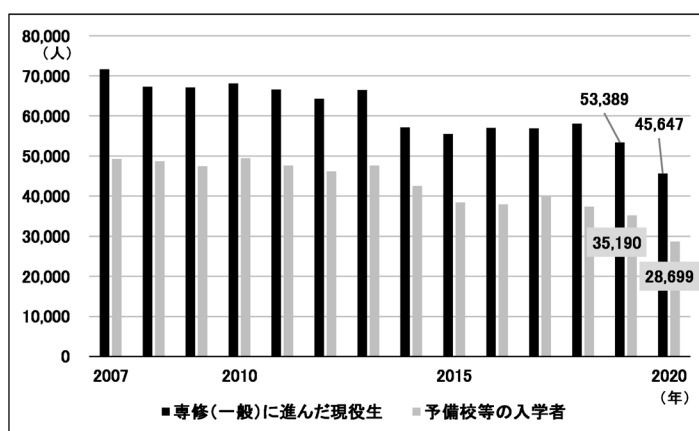
■2年連続で専門学校への進学者が増加の一方、専修学校(一般課程)等に進んだ者は減少

専門学校入学者は、高校卒業者が減少しているなか、この2年で6,038人増。一方、専修学校(一般課程)等に進んだ者は、この2年で▲12,436人。この専修学校(一般課程)等には、さまざまな学びがあるが、予備校等が相当の割合を占めている。

図表5は、専修学校(一般課程)と各種学校に進んだ現役生の人数と、予備校等に進んだ人数を並べたデータだ。『学校基本調査』への報告者が異なるものの、一定の相関が見られる推移を示している。2020年に専修学校(一般課程)等に進んだ者は前年に比べて▲7,742人。一方、予備校等に進んだ者は▲6,491人となっている。現役志向による大学入学者の増加の裏返しとして、浪人生が減少していることの傍証にはなり得る。なお、2021年共通テスト志願者のうち、既卒生は前年より2万人弱も減少した。

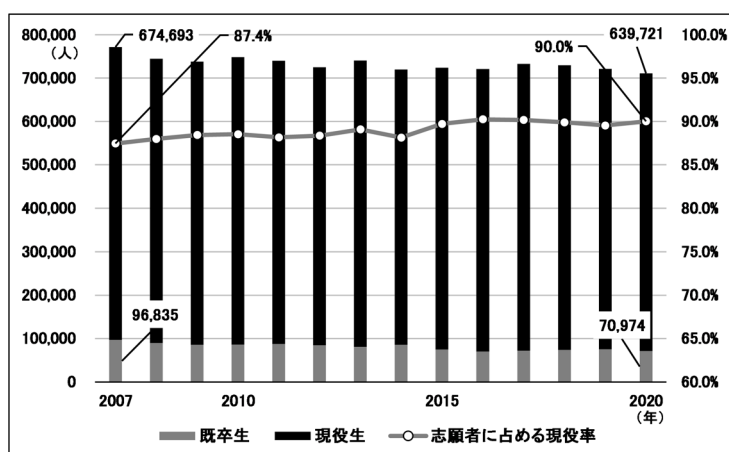
2020年は強い現役志向で、現役での大学入学者が増加するとともに、卒業後の進路を決めるという意味で、専門学校入学者も増加。予備校等へ進んだ者が減少したという構図が『学校基本調査』から見て取れる。

[図表 5]
現役で専修学校(一般課程)等へ進んだ者と、予備校等の入学者数の推移
[男女計]



※文部科学省『学校基本調査』より作成。
 ※専修(一般)に進んだ現役生=卒業後に専修学校一般課程・高等課程、各種学校に進んだ現役生の合計(認可された予備校等はここに含む)。
 高校(全日制・定時制)、中等教育学校後期課程の合計。高校からの報告データ。
 ※予備校等の入学者=専修学校一般課程の「受験・補習」区分と、各種学校の「予備校」「学習・補習」区分の合計。各種学校は高卒以上を入学資格とする数値。
 専修学校・各種学校からの報告データ。 ※数値は2019年、2020年のみ表示。

[図表 6]
大学・短大入学志願者のうち
現役生・既卒生の推移
[男女計]



※文部科学省『学校基本調査』より作成。
 ※高校(全日制・定時制)、
 中等教育学校後期課程の合計。
 ※数値は2007年、2020年のみ表示。

■大学・短大志願者に占める現役率は2015年以降、9割で推移。

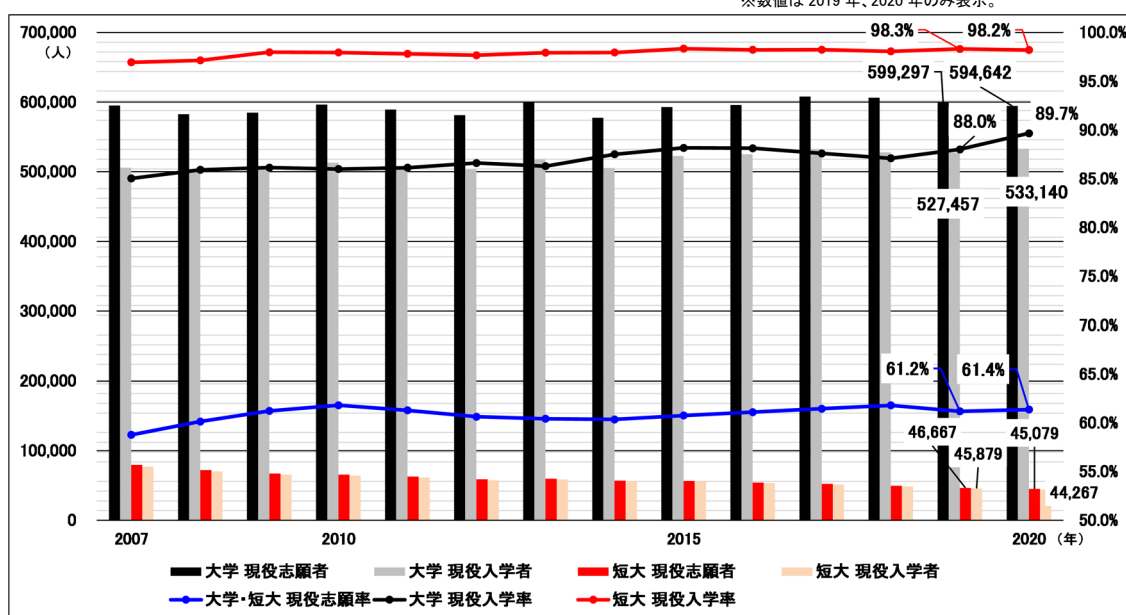
大学・短大への現役志願率は2年ぶりに上昇

志願者に占める現役率の上昇の継続が、図表6からわかる。2007年に約10万人いた既卒志願者が、2020年には約7万人に減少している。なお蛇足ながら、既卒志願者数は1995年が約27万人(志願者に占める既卒率23.9%)、2000年が約15万人(同17.1%)だった。

図表7では現役生の大学・短大への志願(人数・率)、入学率を示した。2020年は、高校卒業生の減少もあり、大学への入学志願者数は▲4,655人だったが、入学者が5,683人増。入学率がおよそ9割、89.7%に達した。大学・短大への現役志願率は、2年ぶりにアップしたが、入試改革とコロナ禍の2021年以降、どのような動きとなるかは注視ポイントとなる。

[図表 7] 現役生の大学・短大入学志願者数・入学者数、
志願率、入学率の推移[男女計]

※文部科学省『学校基本調査』より作成。
 ※高校(全日制・定時制)、中等教育学校後期課程の合計。
 ※志願率=志願者数÷卒業生数。
 ※入学率=進学者数÷志願者数。
 ※数値は2019年、2020年のみ表示。



【図表 8】 私立大学 募集人員と入学者数の状況推移 (人)

	総合計			うち、一般入試		
	募集人員	入学者数	入学者数 －募集人員	募集人員	入学者数	入学者数 －募集人員
2015年	458,897	477,727	18,830	259,992	234,172	-25,820
2016年	461,016	478,320	17,304	261,703	234,331	-27,372
2017年	471,256	486,857	15,601	267,804	236,096	-31,708
2018年	478,001	483,622	5,621	271,548	228,967	-42,581
2019年	478,433	485,506	7,073	272,178	221,396	-50,782

※文部科学省『国公立大学入学者選抜実施状況』より作成。

■大学への現役進学率の上昇の背景にあるもの

図表8は、少し古い2019年入試までの5年間のデータだが、私立大学の募集人員と入学者数の推移を示したものだ。総合計を見ると、募集人員より入学者数が多いことから、大学全体として入学者を確保しているとわかる。一方、一般入試を見ると、募集人員に対して入学者数が不足している。2018年、2019年に関しては一般入試での入学者数自体が減少している。定員超過率の厳格化による入学定員管理の影響もあるだろうが、一般入試以外での入学者、つまり推薦・AO入試での入学者が急増したと見られる。

文科省『国公立大学入学者選抜実施状況』で、2019年私立大学入学者の内訳を見ると、「推薦+AO」入学者の割合は全体の54.1%を占め、2年連続で過去最高を更新した。推薦入試での入学者数は206,672人で20万人超は初、全体に占める割合は42.6%で過去最高。AO入試での入学者は全体の11.6%、5年連続で過去最高を更新。なお、国公立大学も2019年の「推薦+AO」入学者の割合は全体の19.3%を占め、4年連続で過去最高を更新した。

図表9・10は、私立大学の入試方式別の入学者数の割合を、推薦入試の内訳まで示したもので、弊社刊行『大学の真の実力 情報公開BOOK』より作成した。

【図表 9】 私立大学 入試方式別の入学者の割合の推移

	1年次 入学者数(人) ※有効回答 集計分	入試方式別 入学者の割合					
		一般入試	公募制 推薦入試	指定校制 推薦入試	付属校・系列校 推薦入試	AO入試	その他
2015年	398,793	49.4%	11.3%	18.4%	6.9%	9.2%	4.7%
2016年	406,912	49.0%	11.5%	18.6%	6.8%	9.4%	4.6%
2017年	412,526	47.8%	11.8%	18.7%	6.6%	10.0%	5.1%
2018年	419,108	46.8%	11.5%	19.1%	6.9%	10.4%	5.3%
2019年	419,059	45.4%	11.0%	20.7%	7.1%	10.6%	5.2%
2020年	427,147	43.5%	10.4%	22.7%	7.3%	11.0%	5.2%

●図表 9・10＝旺文社『大学の真の実力 情報公開 BOOK』より作成。

※一般入試にセンター試験利用入試を含む。

※その他には大学の入試分類により、社会人入試、外国人対象の入試やスポーツ推薦を含んでいる場合がある。そのため、他の推薦入試の割合が、低めに出る傾向がある。

※有効回答大学・学部数：2015年＝458 大学 1,377 学部／2016年＝476 大学 1,431 学部／2017年＝479 大学 1,475 学部／2018年＝477 大学 1,507 学部／2019年＝479 大学 1,532 学部／2020年＝491 大学 1,577 学部。

※大学により、入試方式別の入学者数の回答に際して「公募制と指定校制の合算で回答」「AOと付属校・系列校の合算で回答」「指定校制と付属校・系列校は非公表」などのケースがある。入学者総数と、入試方式別の入学者数の合計が一致しない場合、入試方式別の明細がない場合は、集計から除いている。

**【図表 10】
私立大学 推薦入学者の方式別の割合の推移**

	公募制	指定校制	付属校・系列校
2015年	30.9%	50.1%	19.0%
2016年	31.3%	50.4%	18.4%
2017年	31.8%	50.3%	17.9%
2018年	30.7%	51.0%	18.3%
2019年	28.3%	53.5%	18.2%
2020年	25.8%	56.2%	18.0%

一般入試での入学者の割合が逡減する一方で、指定校、付属校・系列校の各推薦入試、A0入試の割合が上昇している。とりわけ2020年は、指定校からの推薦入学者の伸びが目につく。大学にとっては優秀な学生を早期に確保できる、受験生にとっては合格を早期に勝ち取れるということで、その入学者増が、現役での大学進学率アップの要因のひとつと、これらのデータからは読み取れる。

推薦・A0（現：学校推薦型・総合型）での入学者の増加は、今後も続くと考える。



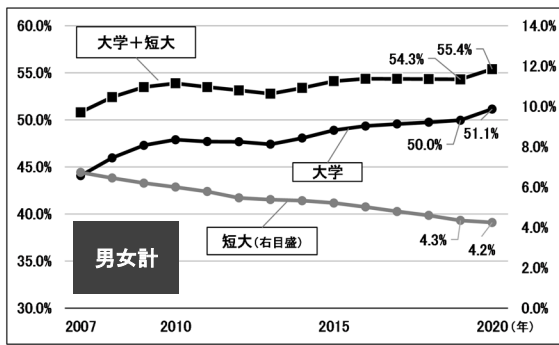
2020年入試では現役志向が最大化した。背景には、翌年の入試改革があったと見る。そして同様に、いやそれ以上に、昨春からのコロナ禍が今年度の高校生、高校、大学などに与えた影響は計り知れない。来年度も、さまざまな形で影響が続くだろう。

学びたい者が不安なく、不足なく学べる日が来ることを願うとともに、国による効果的な施策を期待したい。

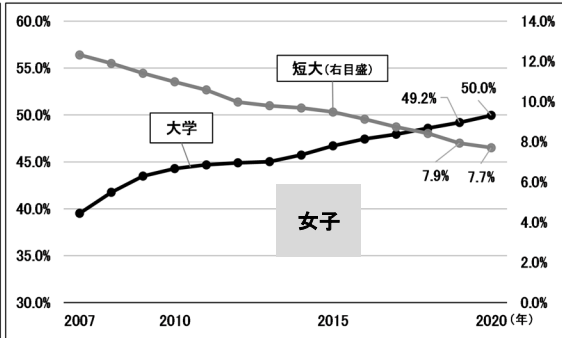
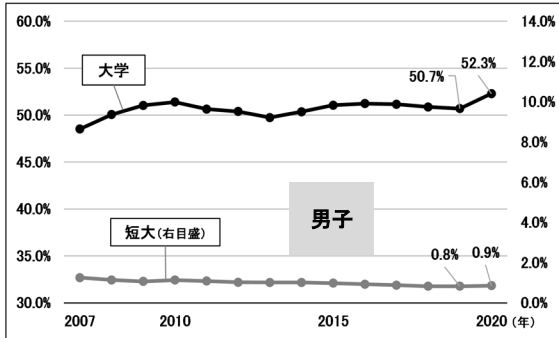
(2021.3 加納)

次ページに参考データを掲載

**[参考データ]
大学・短大への現役進学率の推移**



※文部科学省『学校基本調査』より作成。
 ※高校(全日制・定時制)、中等教育学校後期課程の合計。
 ※現役進学率=進学者数÷卒業生数。
 ※数値は2019年、2020年のみ表示。



**[参考データ] 現役で専門学校、
専修学校(一般課程)等へ進んだ者の
割合の推移**

※文部科学省『学校基本調査』より作成。
 ※高校(全日制・定時制)、中等教育学校後期課程の合計。
 ※専門学校=専修学校専門課程。
 ※専修(一般)=専修学校一般課程・高等課程、各種学校の合計
 (認可された予備校等はここに含む)。
 ※割合=各学校に進んだ人数÷卒業生数。
 ※数値は2019年、2020年のみ表示。

